

---

# 合格者が作る 「認定情報技術者(個人認証)申請の手引き」

2018年2月2日

#14000011

住友電工情報システム(株) 岡崎四郎

---

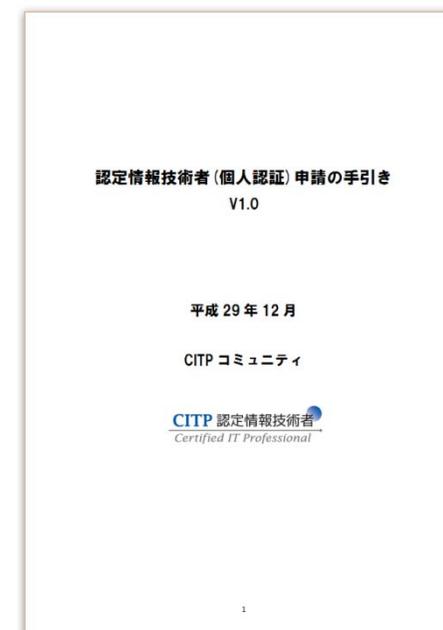
---

CITPコミュニティで申請の手引きを作成しました。  
全23ページ、有志12人の経験  
HPに公開予定です。

第1章 IT技術者のスキル・能力を  
どのように可視化するの？

第2章 申請書の書き方のポイントは？

第3章 合格者からのアドバイス



# 第1章 IT技術者のスキル・能力をどのように可視化するの？

---

## 認定のポイント

認定情報技術者(CITP)の申請案内には下記のように解説されている。

「CITPとは、ITスキル標準(ITSS)のレベル4以上に相当する知識とスキルを保有し、それを業務で発揮していると共に、技術の発展や後進の育成などの社会貢献を行っていると認定を受けた技術者です。

この説明から

- ①知識を保有
  - ②スキルを保有
  - ③業務で知識・スキルを発揮している(ビジネス貢献)
  - ④技術の発展や後進の育成などの社会貢献を行っている(プロフェッショナル貢献)
- の4つの観点で、レベル4以上が必要ということになる。

# 第1章 IT技術者のスキル・能力をどのように可視化するの？

## 認定のポイント

CITPの認定には以下の4つがポイントになる(図1)。

①知識

②専門分野のスキル

プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立している

③ビジネス貢献

プロジェクトの成功の経験と実績などのビジネス成果に対する貢献。独力で業務上の課題の発見と解決をリードできる。

④プロフェッショナル貢献

専門技術の向上による社内外への貢献、後進育成や技術の継承などのプロフェッショナルとしての貢献。自らのスキルの研鑽を継続することができる。

| ITSSのレベル分け |        | レベルイメージ      | 評価方法                      | 資格制度  |                           |
|------------|--------|--------------|---------------------------|---|---------------------------|
| 高度IT人材     | スーパーハイ | レベル7         | 国内のハイエンドプレーヤかつ世界で通用するプレーヤ | 成果（実績）ベース<br>↓<br>業務経験や面談等<br><b>②、③、④</b>  | 認定情報<br>技術者制度<br><b>①</b> |
|            |        | レベル6         | 国内のハイエンドプレーヤ              |   |                           |
|            | ハイ     | レベル5         | 企業内のハイエンドプレーヤ             |   |                           |
|            |        | レベル4         | 高度な知識・技能                  |   |                           |
| ミドル        | レベル3   | 応用的知識・技能     | スキル（能力）ベース<br>↓<br>試験の可否  | 高度試験<br>応用情報技術者試験<br>基本情報技術者試験<br>ITパスポート試験 |                           |
|            | レベル2   | 基本的知識・技能     |                           |   |                           |
|            | レベル1   | 最低限求められる基礎知識 |                           |   |                           |
| エントリ       |        |              |                           |   |                           |

情報処理技術者試験

出典：高度IT人材の育成をめざして（産業構造審議会）一部修正

図1 ITSSと認定情報技術者の関係

# 第1章 IT技術者のスキル・能力をどのように可視化するの？

## ①知識

ITSSの知識レベルと情報処理試験は連携しており、レベル4の知識は高度情報処理試験の合格により証明できる。申請職種に必要な高度情報処理試験は図2の通り。

| CITP職種          | 専門分野                     | 情報処理技術者試験(高度試験)<br>※いづれかに合格していること   |
|-----------------|--------------------------|---|
| ITアーキテクト        | アプリケーションアーキテクト           | システムアーキテクト 試験   |
|                 | インテグレーションアーキテクト          | ITストラテジスト 試験  |
|                 | インフラストラクチャアーキテクト         | (旧試験)アプリケーションエンジニア<br>(旧試験)システムアナリスト<br>(旧試験)上級システムアドミニストレータ                                |
| プロジェクトマネジメント    | システム開発                   | プロジェクトマネージャ試験   |
|                 | ネットワークサービス<br>ソフトウェア製品開発 | (旧試験)プロジェクトマネージャ  |
| ITスペシャリスト       | ネットワーク                   | ネットワークスペシャリスト試験<br>(旧試験)テクニカルエンジニア:ネットワーク   |
|                 | データベース                   | データベーススペシャリスト 試験<br>(旧試験)テクニカルエンジニア:データベース  |
|                 | セキュリティ                   | 情報処理安全確保支援士試験<br>情報セキュリティスペシャリスト 試験<br>(旧試験)テクニカルエンジニア:情報セキュリティ<br>(旧試験)情報セキュリティアドミニストレータ試験 |
|                 |                          |   |
| アプリケーションスペシャリスト | 業務システム<br>業務パッケージ        | システムアーキテクト 試験<br>(旧試験)アプリケーションエンジニア   |
| ソフトウェア開発        | 応用ソフト                    | システムアーキテクト 試験<br>(旧試験)アプリケーションエンジニア   |
| カスタムサービス        | ハードウェア                   | ITサービスマネージャ試験   |
|                 | ソフトウェア<br>ファシリティマネジメント   | (旧試験)テクニカルエンジニア:システム管理  |
| ITサービスマネジメント    | 運用管理                     | ITサービスマネージャ試験   |
|                 | システム管理                   | (旧試験)テクニカルエンジニア:システム管理  |
|                 | オペレーション                  |   |
|                 | サービスデスク                  |   |

図2 CITP職種と申請に必要な情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験

# 第1章 IT技術者のスキル・能力をどのように可視化するの？

## ②専門分野のスキル

申請者は「キャリア⇒達成度指標」と「スキル⇒スキル熟達度」の基準を満たすことが求められる。理解を助けるため、アプリケーションスペシャリスト・レベル4の具体的な基準を図3に示す。



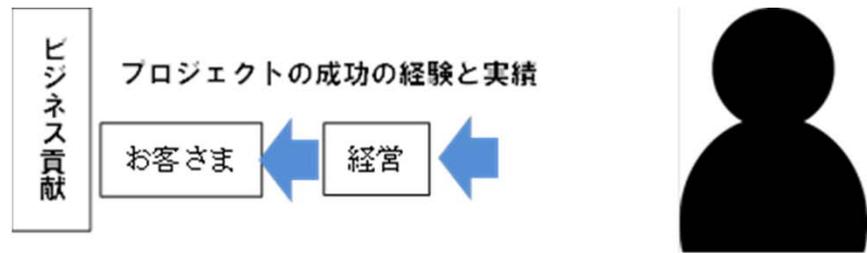
| キャリア（達成度指標）  | スキル（スキル熟達度）   |
|--|---|
| 責任：開発チームリーダーとして<br>実績：至近5年以内のプロジェクトを<br>2回以上<br>複雑性：8つの複雑性要件の中から<br>2項目以上<br>サイズ：3人以上<br>を成功裏に達成した経験を有する | 開発チームリーダーとして<br>共通スキル（業務分析、テクノロジー、<br>デザイン等）および固有スキル（業務<br>システム構築等）<br>を發揮できる |

図3 アプリケーションスペシャリスト  
（レベル4）の達成度指標とスキル熟達度

# 第1章 IT技術者のスキル・能力をどのように可視化するの？

## ③ビジネス貢献

ビジネス貢献は、担当したプロジェクトにおける責任の重さを示す**責任性**、プロジェクトの難易度を表す**複雑性**、および**サイズ**という3つの指標で評価する(図6)。



ITスキル標準V3 2011 2部:キャリア編\_20120326

B. 7 アプリケーションスペシャリスト  
 ■達成度指標のレベル記述の違い (ビジネス貢献) 専門分野「業務システム」

| レベル | ビジネス貢献                           |                                       |   |  |   |       |               |
|-----|----------------------------------|---------------------------------------|---|--|---|-------|---------------|
|     | 活動局面                             | 役割・責任範囲                               | 品質条件  | 実績回数   | 複雑性要件   | 必要条件数 | 開発チームのピーク時要員数 |
| 6   | アプリケーションの開発、設計、構築、導入、テスト及び保守における | 開発チーム責任者として、開発チームをリードし、業務開発全局面に責任を持つ。 | 顧客の環境に最適な品質(機能性、回復性、利便性等)を満足するアプリケーションの設計、開発及び導入を | 3回以上(内1回以上はレベル6、他はレベル5以上の複雑性、サイズ相当)成功裡に達成した経験と実績を有する。        | <input type="checkbox"/> 複雑な業務要件が多岐に亘り存在し、幾つかの特殊な業務要件が含まれる<br><input type="checkbox"/> 新技術で大手企業で実績のないもの、あるいは事例が見当たらない使用実績の少ないテクノロジーを使用<br><input type="checkbox"/> 複数のシステム形態が共存(トランザクション処理、クライアントサーバ、Web等)<br><input type="checkbox"/> ミッションクリティカルなシステムであり高品質を要求<br><input type="checkbox"/> 各業種代表的、業種横断的又は国内有数規模のシステム<br><input type="checkbox"/> クロスプラットフォームでのアプリケーション<br><input type="checkbox"/> 24時間365日の連続稼働が要求され、変更、保守、障害回復に高度な設計が必要<br><input type="checkbox"/> 限られた期間内で要求される業務形態の変更度合いが大きい | 2項目以上 | 50人以上         |
| 5   |                                  |                                       |   | 3回以上(内1回以上はレベル5、他はレベル4以上の複雑性、サイズ相当)成功裡に達成した経験と実績を有する。        |   | 4項目以上 | 10人以上50人未満    |
| 4   |                                  |                                       |   | プロジェクトを2回以上(内1回以上はレベル4、他はレベル3以上の複雑性、サイズ相当)成功裡に達成した経験と実績を有する。 |   | 2項目以上 | 3人以上          |
| 3   | 既存の作業標準やガイドランスに従い、開発チームメンバーとして、  | 担当する成果物の実施責任を持ち、                      | プロジェクトに1回以上(レベル3の複雑性、サイズ相当)参画した経験を有する。            | 2項目以上  | 特定せず  |       |               |

図6 ビジネス貢献の3つの指標 (アプリケーションスペシャリスト)

# 第1章 IT技術者のスキル・能力をどのように可視化するの？

## ④ プロフェッショナル貢献

プロフェッショナル貢献は、技術者の保有する専門性(専門分野別主要テーマ)、貢献度合い、技術継承実績(技術の継承に関する実績度)、後進の育成の4つの指標で評価する(図7)。

プロフェッショナル貢献

専門技術の向上による社内外への貢献、後進育成や技術の継承



ITスキル標準V3 2011 2部:キャリア編\_20120326

■達成度指標のレベル記述の違い(プロフェッショナル貢献)

| レベル | プロフェッショナル貢献  |  |                                   |  |       |    |
|-----|--|--|-----------------------------------|--|-------|----|
|     | 専門分野別主要テーマ   |  | 貢献度合い                             | 技術の継承に対する実績度   | 後進の育成 |    |
|     | 業務システム   | 業務パッケージ  |                                   | 活動分野   | 必要条件数 |    |
| 6   | <input type="checkbox"/> アプリケーション開発領域における技術要素(ツール、標準、メソッド等)<br><input type="checkbox"/> アプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクのアセスメント | <input type="checkbox"/> 業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーション開発領域における技術要素(ツール、標準、メソッド等)<br><input type="checkbox"/> 業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクのアセスメント | 他を指導することができる高度な専門性を保有し、業界に貢献している。 | <input type="checkbox"/> 学会、委員会等プロフェッショナルコミュニティ活動<br><input type="checkbox"/> 著書<br><input type="checkbox"/> 社外論文掲載<br><input type="checkbox"/> 社内論文掲載 | 4項目以上 | 必須 |
| 5   | <input type="checkbox"/> アプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクの管理  | <input type="checkbox"/> 業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクの管理   | 他を指導することができる高度な専門性を保有し、社内に貢献している。 | <input type="checkbox"/> 社外講師<br><input type="checkbox"/> 社内講師<br><input type="checkbox"/> 特許出願  | 3項目以上 | 必須 |
| 4   | <input type="checkbox"/> アプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクの管理  | <input type="checkbox"/> 業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクの管理   | 高度な専門性を保有し、後進を指導している。             |  | 1項目以上 | 必須 |
| 3   | <input type="checkbox"/> アプリケーションの設計、開発、導入   | <input type="checkbox"/> 業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーションの設計、開発、導入、カスタマイズ   | 専門性を保有し、独力で実践している。                | -  | -     | -  |

図7 プロフェッショナル貢献の4つの指標(アプリケーションスペシャリスト)

## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

---

1. 提出書類の概要と作成順
2. 業務経歴書
3. 認定情報技術者申請書
4. 主要業務・研修・プロフェッショナル貢献の記録
5. 達成度指標チェックシート
6. スキル熟達度チェックシート

## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

---

作成する提出書類は下記の5種類がある。

- a. 認定情報技術者申請書
- b. 主要業務・研修・プロフェッショナル貢献の記録
- c. 業務経歴書No1, No2
- d. 達成度指標チェックシート
- e. スキル熟達度チェックシート

このうち最も重要なのが『c. 業務経歴書』である。採点者はこれに書かれている具体的な内容で申請者のスキル・能力を判断する（と思われる）。

また、『a. 認定情報技術者申請書』は概要をまとめたもの、『b. 主要業務・研修・プロフェッショナル貢献の記録』、『d. 達成度指標チェックシート』、『e. スキル熟達度チェックシート』の3つは一覧によるチェック用である。

したがって『c. 業務経歴書No1, No2』に最もエネルギーを使い、これが完成したら概要編やチェックシート系を作成するのが良い。

---

## 第2章 申請書の書き方のポイントは？



## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

### 業務経歴書

- 一般的な内容ではなく、  
実際に実施した内容を具体的に記載する

#### 【ITS(NW)職種の合格例】

|          |   |
|----------|---|
| プロジェクト要件 | <ul style="list-style-type: none"><li>・新拠点に構築済みのリバースプロキシが存在し、<br/>新拠点のリバースプロキシを経由する経路へ変更する方式で</li><li>・新拠点のリバースプロキシはファームウェアのバージョンが異なることから、社外公開サーバ動作確認を移行作業日までに実施する。</li></ul> |
|----------|---|

## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

○高度情報処理試験に出てくる専門用語を出来るだけ使う

### 【PM職種の合格例】

|                  |  |
|------------------|--|
| 活用した専門技術         | <p><b>PMBOKのプロジェクトマネジメント・プロセス全般</b>を活用しているが、特に高度な対応を必要とした技術は以下</p> <p><b>WBS作成、アクティビティ資源・所要時間見積り、コスト見積り、スケジュールコントロール</b></p>   |
| 自らのスキルを発揮した課題と解決 | <p>[解決・結果]</p> <p>私は、プロジェクトの進捗遅延を解消するために、WBS作成、アクティビティ資源・所要時間見積り、コスト見積り、スケジュールコントロールを実施し、プロジェクトを予定通り完了させた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・作成したWBSをアクティビティに要素分解する際、新ストレージ仕様</li><li>・若手メンバをアクティビティ定義の作業に参加させることにより、PM</li></ul> |



## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

---

- ・チームリーダーとしてのスキルを発揮したか

### 【PM職種の合格例】

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 自らのスキル<br>を発揮した課<br>題と解決 | <p>当プロジェクトは短納期であり、かつ、顧客担当者が十分な打ち合せ時間を確保する事が困難であるという課題があった。そのため、<b><u>私はPMとしてプロトタイプモデルを採用する事とした。</u></b>なぜならば、プロトタイプを</p> <p>プロジェクトの進捗状況を把握し、顧客とのコミュニケーションを促進し、プロジェクトの成功を確保する事ができるためである。</p> <p>プロジェクトの進捗状況を把握し、顧客とのコミュニケーションを促進し、プロジェクトの成功を確保する事ができるためである。</p> <p>プロジェクトの進捗状況を把握し、顧客とのコミュニケーションを促進し、プロジェクトの成功を確保する事ができるためである。</p> <p>プロジェクトの進捗状況を把握し、顧客とのコミュニケーションを促進し、プロジェクトの成功を確保する事ができるためである。</p> |
|--------------------------|--|

役割を明確に記述する

---

## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

---

### ○後進育成への貢献

#### ・『後進育成への貢献』欄は必須

#### 【ITS (NW) 職種の合格例】

|          |  |
|----------|--|
| 後進育成への貢献 | <p>本プロジェクトでは少人数のチームであったため、メンバは一人何役もこなす必要があった。担当メンバは〇〇業務分野の専門家としてチーム</p> <p>についてwebアプリ部分のコーディングを行ってもらうことで経験を蓄積し、ITS（ネットワーク）レベル3相当の能力を身につけた。現在は運用保</p> |
|----------|--|

具体的に記述

## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

---

### 達成度指標チェックシート

- 達成度指標チェックシートは詳細に記述した2件の業務経歴書について、ビジネス貢献、プロフェッショナル貢献をクリアしているかをマーク方式でチェックするもの
- ビジネス貢献（責任性・複雑性・サイズ）、プロフェッショナル貢献（専門性・技術の継承・後進の育成）の計6項目について、業務経歴書を読み直しながらチェックするとよい。

他書類との整合性  
申請職種との整合性 をチェックする

## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

### スキル熟達度チェックシート

- スキル熟達度チェックシートは全項目について、具体的に記載する必要がある。ITSSのスキル領域とスキル熟達度を見て、全項目について手を抜かずしっかり記載してほしい。

#### 【ITA職種の合格例】

|      |  |
|------|--|
| 設計技法 | <p>(ソリューション設計の責任者として、最適なメソドロジー、モデリング技法を選択、適用し、ITアーキテクチャ設計を実施することができる。)</p> <p>ソリューション設計の責任者として、最適なメソドロジー、モデリング技法を選択、適用し、ITアーキテクチャ設計を実施することができた。No1では、重要機能の事前評価の為にプロトタイピングによる開発を行った。No2では、重要機能の事前評価の為にプロトタイピングによる開発を行った。</p> <p>それにより実績No1、No2共にユーザから満足の得られる開発を行えた。</p> |
|------|--|

ITSSに従って、具体的内容を記述

## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

### 認定情報技術者申請書

○申請理由はレベル4に該当することを示すためにビジネス貢献およびプロフェッショナル貢献の要約を4～5百字内で簡潔に記述

#### 【PM職種の合格例】

|             |   |
|-------------|---|
| 申請理由        | 大手会社向けのシステム開発を <u>過去5年間に2件経験し、どちらもプロジェクトマネージャとしてメンバーを率いて、品質、コスト、納期のバ</u>  |
| ビジネス貢献      | を滞りなく実施している。  |
|             | 業務経歴書の実績No.1に関しては、開発のプロジェクトマネージャとし  |
| プロフェッショナル貢献 | を滞りなく実施している。  |
|             | 績No.1では <u>若手を中心にプロジェクトを実施し、自信を付けさせると同時に技術力の向上にも貢献したほか、社外のPMコンテストにPMとして参加し、プロジェクトマネジメント部門で優勝した。</u><br>以上のビジネス貢献、プロフェッショナル貢献によりレベル4のプロジェクトマネジメントの条件を満たしていると考え認定を申請する。 |

## 第2章 申請書の書き方のポイントは？

### 認定情報技術者申請書

○得意分野はスキル熟達度チェックシートに記載した内容の要約を含めて、2～3百字程度に具体的かつ簡潔に記述する

#### 【PM職種の合格例】

|      |  |
|------|--|
| 申請理由 | <p>入社以来、大手会社向けのミッションクリティカルな基幹系システムの構築・開発に携わっており、オープン系のシステム構築・開発を得意分野としている。特に適用実績のあるオープンソースソフトウェア(以下、OSSと呼称)の課題解決や非互換対応といった専門性の高い分野に精通している。また、システム開発だけでなく、顧客企業に求められる競争力強化に必要なコストダウン施策や新規システムの企画・提案も行っている。従来のシステムは、オンプレミス環境に追加設備投資を重ねてきた経緯</p> <p><del>システムは、オンプレミス環境に追加設備投資を重ねてきた経緯</del></p> <p><del>システムは、オンプレミス環境に追加設備投資を重ねてきた経緯</del></p> |
|------|--|

スキル熟達度チェックシートを要約



## 第3章 合格者からのアドバイス

---

### 計画的に準備する

- ・申請書に記入する内容が多いため、作成に時間がかかることと、資格の合格証書や研修の受講記録など用意する資料が多く、探すのに手間取って、時間をかけて準備を進める必要がありましたので、締め切りまでの時間に余裕を持って準備をする必要があると思います。
- ・申請書の作成には非常に時間がかかったため、シナリオ作成から素案作成、本書作成、校正、他者チェックなど、計画的に進めていく必要があった。

## 第3章 合格者からのアドバイス

---

### ITスキル標準を熟読する

- ・業務経歴書、チェックリストを作成する前に、「ITスキル標準」を熟読し、自分が申請する業種に求められているスキルレベルを理解することが大切だと思います。私はこれをしっかり行わない状態で、業務経歴書、チェックリストの記載を始めてしまったので、一通り記載した後に、大量の修正を行うことになりました。

## 第3章 合格者からのアドバイス

---

### 社外活動への取り組み

・ITスキルを客観的に評価できる社外論文やフォーラム講演などは、エビデンス含め提出することができるため、合格に有利に働くと思います。申請者(予定者含む)は、特に意識した社外活動の取り組みが必要と考えます。

・プロフェッショナル貢献の記載内容に書けることが少なく、記載内容も妥当であるか不安でした。また、具体的な活動のエビデンスを求められるので、計画的に記録を残していないと難しいと感じました。

## 第3章 合格者からのアドバイス

---

### 職種を意識する

・役割＝リーダーを意識しました。「○○した」だと、担当者になってしまうので、「○○するよう指示した」や「○○に気を付けるよう指導した」のような表現を用いました。

・求められるものが職種によって違うということです。私はITS(SC)ですが、求められるのはあくまで「技術」なのだと面接で強く感じました。日常業務でプロジェクトマネージャを行っている、どうしてもマネジメントの実績をアピールしがちだと思うので、職種で求められるスキルを意識して執筆することが大事だと思いました。

## 第3章 合格者からのアドバイス

---

### 記入方法の注意書き/サンプルの熟読

・記入方法の注意書きやサンプルを熟読し、要求されている記載方法を順守するようにしました。形式不備で不合格になってしまうのはとても残念なので。例えば、「2.6 スキル熟達度チェックシート」では、スキル項目ごとに、実績1か実績2かを明記し、とあるので、以下のように記述をしました。

「実績1では、○○をした。実績2では、○○をした。」

## 第3章 合格者からのアドバイス

---

### 他者チェックは必要

- ・採点者は申請者の背景を知りません、知らない人にわかるように簡潔に、かつ具体的に書けていることを他者にチェックしてもらうことが重要です。
- ・推薦者にITSSを十分に読み込んでもらい、チェックをしてもらうことが重要です。